


## 教材・支援機器活用実践事例

### 【筆記に困難さがある児童への 漢字の理解と習得のための学習支援】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	国語
	単元・題材名	全単元を通して
	授業における教師のねらい 授業における子どもの目標	○ 新出漢字について、指書きでの練習を取り入れることで漢字の書き順を覚え、漢字の大まかな形やつくりをとらえて書くことができるとともに、漢字の読み方を理解することができる。
子どもについて	学校・学級・学年	小学校 知的障がい特別支援学級 第3学年
	対象の障がい	知的障がい
	授業の形態	個別学習
学习上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○ 指先が不器用であり、字を書くときの微妙な指の動きが難しい。また、ノートのマスの中に文字を入れるという意識が薄く、筆圧が強く、文字を書くときの力の加減も難しい。空間認知に困難さがあり、ものの位置関係をうまく捉えることができないため、辺の長短や辺の数を捉えて正しく書くことが難しく、目と手の協応動作がうまくできないため、手本を見て書くことが難しい。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	指書きカード（自作教材） 
	活用のねらい	○ 新出漢字の学習を行う時に活用することにより、書き順や画数、辺の長短を意識して練習できるようにする。また、指書きを行うことで、鉛筆で書くことへの苦手意識を軽減し、練習量を確保し、覚えられるようにする。
授業における支援・教材の配慮	○ ドリルで新出漢字の学習を行う際に、筆順を声に出して言いながら指書きで練習する（ドリルの漢字の上に練習する回数分の○を書き、指書きして読み方を練習するごとに○を1個塗る。）。漢字の使い方の例も一緒に練習する。 家に持ち帰り、宿題で練習する際にも指書きで練習してから書くようにする。 ○ ある程度練習したところ、右側の写真の教材で筆順と読み方を確認する。	
子どもの変容や評価	○ 鉛筆での練習よりも集中して取り組むことができ、慣れてくると一人でも取り組めるようになった。 ○ 筆順の番号が書いてあるので、途中で分からなくなっても確認することができた。 ○ 声に出して番号を確認しながら練習することで、筆順を意識しながら練習することができた。	